

2018年3月19日

<報道関係者各位>

株式会社ジェーシービー

JCB、「キャッシュレスとデビットカード利用意向に関する実態調査 2018」を発表

- ・**新年度の目標 1位は4年連続で「貯蓄」、2位は「生活費の見直し・節約」**
- ・**昨年1年間に増やせた貯蓄額は平均59.9万円 キャッシュレス派の年間貯蓄増加額は現金派の2.7倍**
- ・**「完全キャッシュレスのレストラン」男性は肯定派、女性は否定派が多数**
- ・**デビットカード利用のメリットとは？「ポイントが貯まる」「使い過ぎる心配がない」「財布がかさばらない」**

株式会社ジェーシービー(本社:東京都港区、代表取締役兼執行役員社長:浜川 一郎、以下 JCB)は、2018年2月9日(金)から13日(火)の5日間、全国の20歳から69歳の男女を対象に「キャッシュレスとデビットカード利用意向に関する実態調査2018」をインターネットで実施しました。(調査協力会社:ネットエイジア株式会社)

<調査結果の概要>

- ・**新年度の目標 1位は4年連続で「貯蓄」、2位は「生活費の見直し・節約」**
全国の20歳から69歳の男女1,000名(全回答者)に、新年度(4月から)の目標を聞いたところ、最も多かったのは「貯蓄」(38.9%)で、2015年の調査開始以来、4年連続でトップになりました。また、2位は「生活費の見直し・節約」(24.6%)、3位は「仕事や家事の効率UP」(21.0%)、4位は「ダイエット」(18.3%)、5位は「趣味力UP」(17.4%)でした。
- ・**昨年1年間に増やせた貯蓄額は平均59.9万円 キャッシュレス派の年間貯蓄増加額は現金派の2.7倍**
昨年1年間に増やせた貯蓄額を支払い方法によって分けたタイプ別にみると、キャッシュレス派の平均貯蓄増加額は87.6万円で、現金派の平均貯蓄増加額(32.5万円)の2.7倍となりました。キャッシュレス派のほうが現金派よりも貯蓄を増やせたようです。
- ・**「完全キャッシュレスのレストラン」男性は肯定派、女性は否定派が多数**
全回答者(1,000名)に、「完全キャッシュレス化したレストランはアリだと思うか」どうかを聞いたところ、同意率は36.4%、不同意率は33.0%となり、肯定派が否定派を上回る結果となりました。
男女別にみると、男性(同意率39.6%、不同意率28.8%)は肯定派の割合のほうが高くなった一方、女性(同意率33.2%、不同意率37.2%)は否定派の割合のほうが高くなりました。
- ・**デビットカード利用のメリットとは？「ポイントが貯まる」「使い過ぎる心配がない」「財布がかさばらない」**
デビットカードを使っている121名に、デビットカードを使っていて実感していることを聞いたところ、「ポイントが貯まる」が最も多く39.7%、次いで、「使い過ぎる心配がない」が34.7%、「財布がかさばらない(現金を持ち歩かなくて済む)」が33.1%、「チャージが必要ない」が32.2%、「ATM手数料の節約になる」が31.4%となりました。ポイントが貯まる、ATM手数料の節約になるといった“おトク感”、お金を使い過ぎる心配がないといった“安心感”、現金を持ち歩かなくて済む、チャージの必要がないといった“便利さ”を実感している人が多いようです。

JCB企業情報サイト ニュースリリースページにて、本調査資料を公開しています。

URL: <http://www.global.jcb/ja/press/>

<<JCBデビットについて>>

URL: http://www.jcb.jp/products/jcbdebit/?ad_id=jp_press_201603

JCBは、クレジットカード・デビットカード・プリペイドカードなど様々なソリューションでキャッシュレス社会化を促進してまいります。

■■報道関係の皆様へ■■

本プレスリリース内容の転載にあたりましては、
「JCB 調べ」と付記のうえ、ご使用いただきますようお願い申し上げます。
<本件に関する報道関係者からのお問合せ先>
株式会社ジェーシービー 広報部 広報グループ TEL:03-5778-8353

1. 新年度の目標

- ▶ 新年度の目標 1位は4年連続で「貯蓄」、2位は「生活費の見直し・節約」
- ▶ 今年の貯蓄目標額は？ 平均168.7万円 目標額が最も高い年代は？ 男性は30代 女性は50代がピーク
- ▶ 昨年1年間に増やせた貯蓄額は平均59.9万円 キャッシュレス派の年間貯蓄増加額は現金派の2.7倍
- ▶ キャッシュレス派と現金派の貯蓄格差が顕著 キャッシュレス派男性の年間貯蓄増加額は現金派の2.9倍に

全国の20歳から69歳の男女1,000名(全回答者)に、新年度(4月から)の目標を聞いたところ、最も多かったのは「貯蓄」(38.9%)で、2015年の調査開始以来、4年連続(※)でトップになりました。また、2位は「生活費の見直し・節約」(24.6%)、3位は「仕事や家事の効率UP」(21.0%)、4位は「ダイエット」(18.3%)、5位は「趣味力UP」(17.4%)でした。家計や家事の見直しのほか、ダイエットや趣味力UPといった自分磨きを新年度から頑張ろうと考えている人が多いようです。【図1】

※

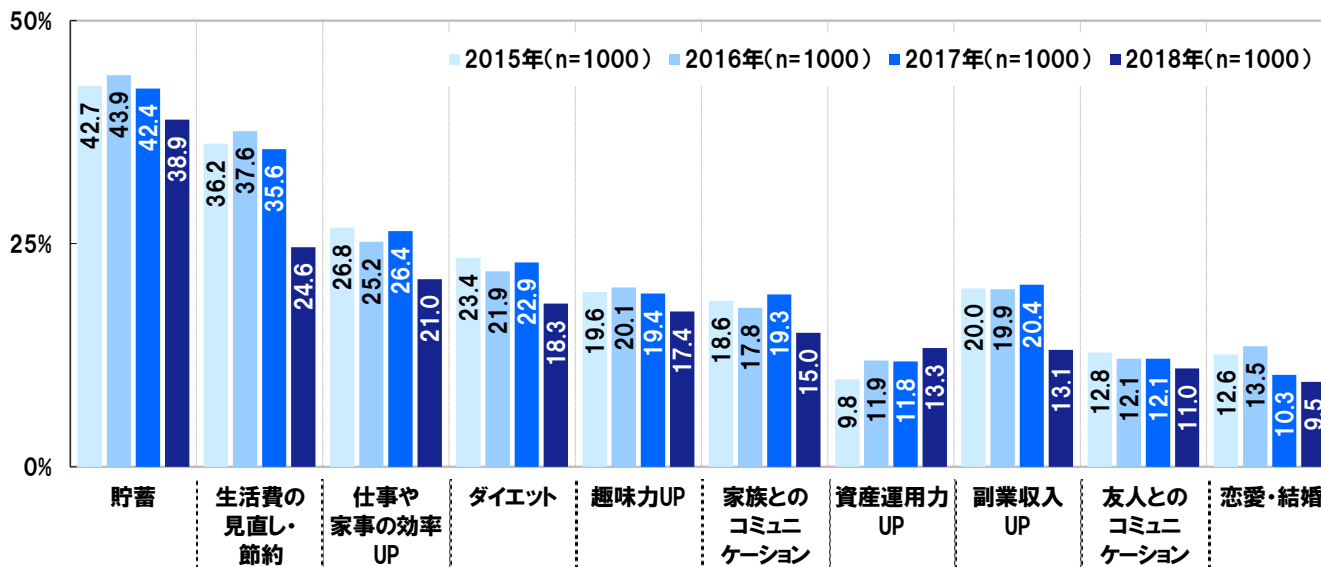
「キャッシュレスとデビットカード利用意向に関する実態調査(2015年3月19日発表)」<http://www.globaljcb/ja/press/20150318120000.html>

「キャッシュレスとデビットカード利用意向に関する実態調査 2016(2016年3月22日発表)」<http://www.globaljcb/ja/press/20160322140500.html>

「キャッシュレスとデビットカード利用意向に関する実態調査 2017(2017年3月29日発表)」<http://www.globaljcb/ja/press/00000000162435.html>

【図1】

■新年度(4月から)の目標 [複数回答形式] ※2018年の上位10位までを抜粋

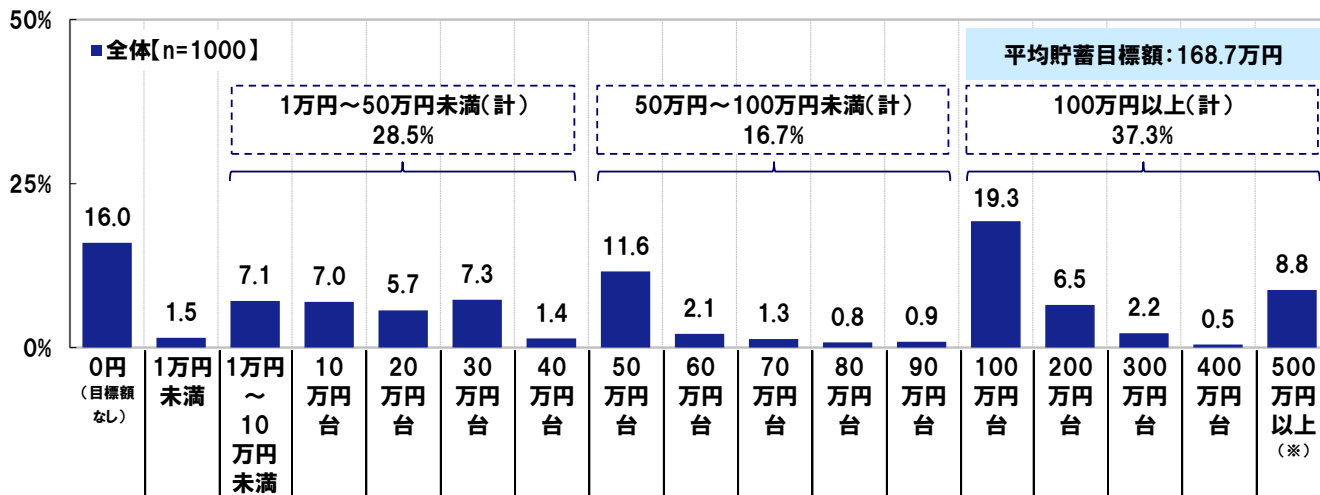


次に、全回答者(1,000名)に、新年度の貯蓄目標額を聞いたところ、「0円」が16.0%でしたが、「100万円台」(19.3%)や「500万円以上」(8.8%)といった回答も一定数みられ、「100万円以上」という人が37.3%になりました。また、0円との回答も含めた平均貯蓄目標額は168.7万円となりました。【図2】

男女別にみると、男性の平均は212.4万円、女性の平均は124.9万円となりました。また、男女それぞれについて、年代別にみていくと、男性では30代が最も高く265.8万円、女性では50代女性が最も高く155.9万円でした。【図3】

【図2】

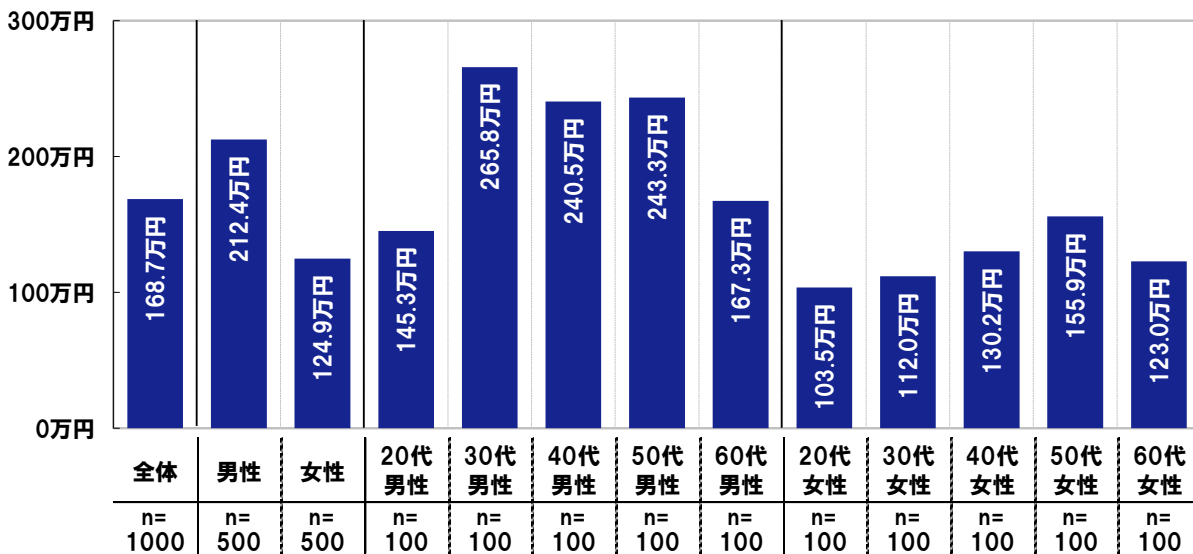
■新年度の貯蓄目標額 [単一回答形式]



※細かい区切りの階級で聴取、取得したデータを統合して表示

【図3】

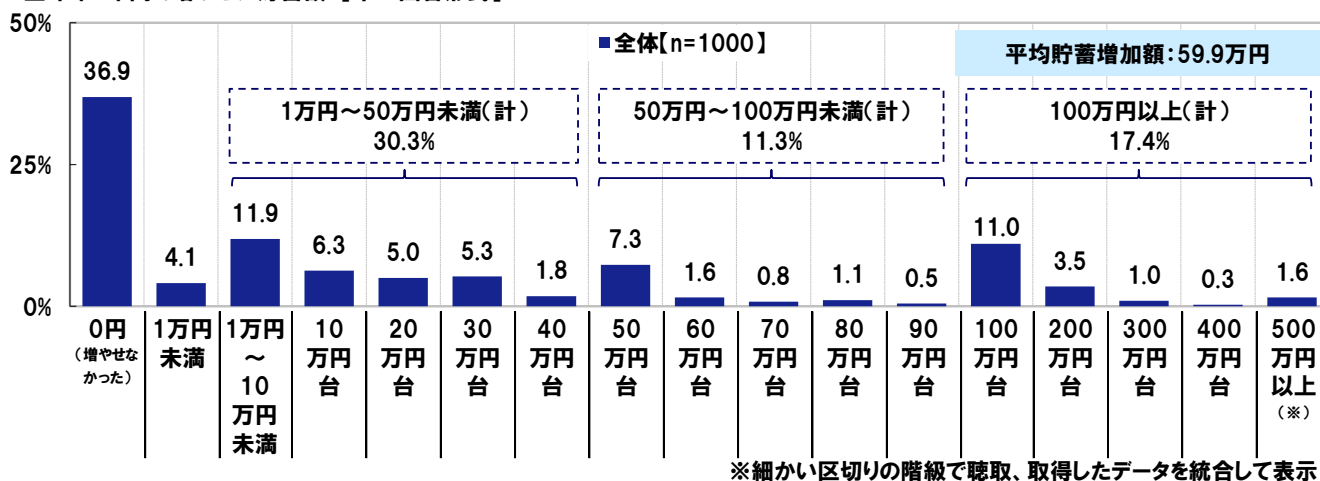
■新年度の貯蓄目標額の平均



また、全回答者(1,000名)に、昨年1年間で増やせた貯蓄額についても聞いたところ、「0円」が36.9%、「1万円～50万円未満」は30.3%、「50万円～100万円未満」は11.3%、「100万円以上」は17.4%となり、0円との回答も含めた平均貯蓄増加額は59.9万円でした。全く増やせなかったという人が3人に1人の割合で見られましたが、1年間で100万円以上増やせたという人も2割近くと少なくないようです。【図4】

【図4】

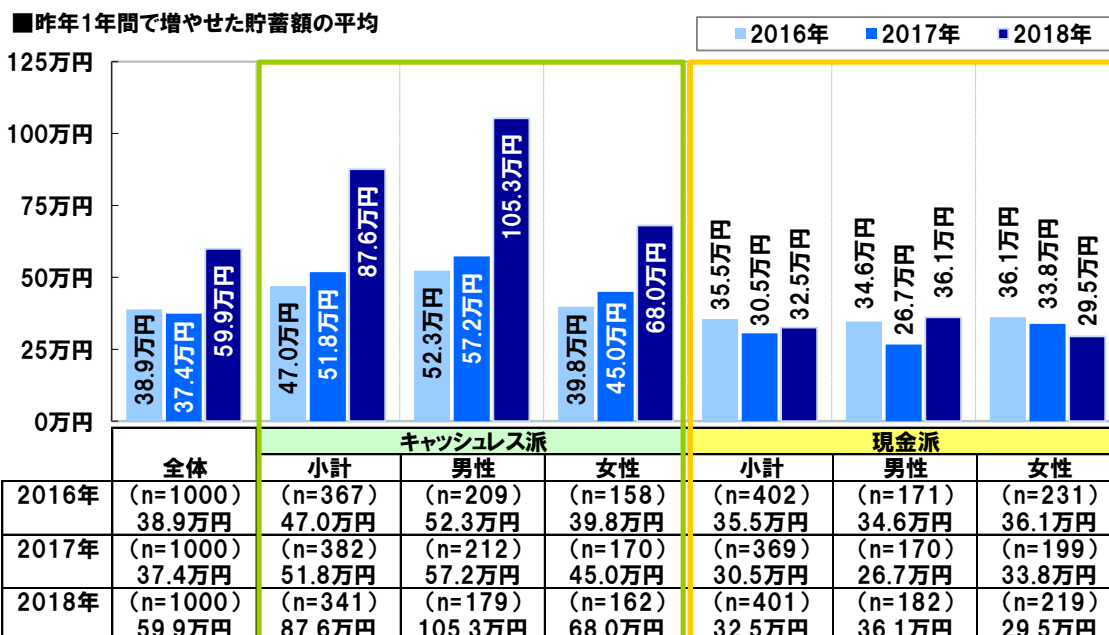
■昨年1年間で増やせた貯蓄額 [単一回答形式]



ここで、昨年1年間で増やせた貯蓄額を支払い方法によって分けたタイプ別にみると、キャッシュレス派の平均貯蓄増加額は87.6万円で、現金派の平均貯蓄増加額(32.5万円)の2.7倍となりました。キャッシュレス派のほうが現金派よりも貯蓄を増やせたようです。

男女別にみると、キャッシュレス派の男性では、平均貯蓄増加額は105.3万円と100万円を超え、現金派の男性(36.1万円)の2.9倍の額となりました。また、キャッシュレス派の女性では、平均貯蓄増加額は68.0万円となっており、現金派の女性(29.5万円)の2.3倍の額となりました。【図5】

【図5】



2. キャッシュレスに関する消費者意識

- ▶ キャッシュレス化を自認する「キャッシュレス派」は3割半、一方「現金派」は4割
- ▶ リアル店舗のキャッシュレス化 消費者の反応は？
「完全キャッシュレスのレストラン」男性は肯定派、女性は否定派が多数、20代女性では6割が否定派という結果に
「無人コンビニ」は今後増えていく？ 増加を予想する人は3割 女性は増加に懐疑的な人が多数派
- ▶ 「キャッシュレス社会になるとマネー教育のあり方が大きく変わると思う」母親の5割半が同意
- ▶ 「将来はお小遣いやお年玉もキャッシュレス化すると思う」2割強
- ▶ デートの支払いはキャッシュレスが無難！？ デートの支払いでNGなのは「ワリカン」より「レジでもたつき」
「デートの支払いがワリカンだとガッカリ」女性の3割半、「レジでもたつく相手にガッカリ」女性の4割強
- ▶ 海外旅行で「現金の持ち歩きは怖い」7割弱、海外旅行経験者の半数近くが「外貨両替の手数料がかさんだことあり」

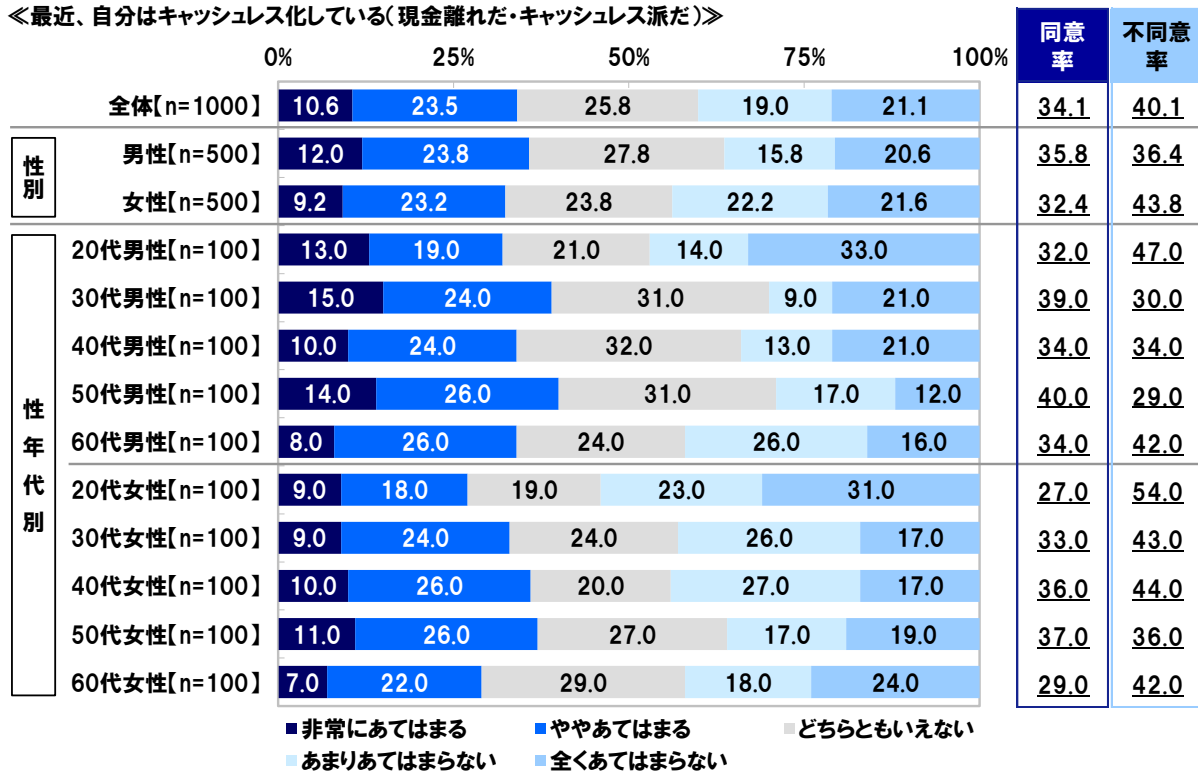
全回答者(1,000名)に、「最近、自分はキャッシュレス化している(現金離れた・キャッシュレス派だ)」と思うか聞いたところ、同意率(「非常にあてはまる」と「ややあてはまる」の合計、以下同様)は34.1%、不同意率(「全くあてはまらない」と「あまりあてはまらない」の合計、以下同様)は40.1%になりました。

性年代別にみると、30代と50代の男性では、同意率(30代男性39.0%、50代男性40.0%)が不同意率(30代男性30.0%、50代男性29.0%)よりも高くなりました。【図6】

【図6】

■自身の考えにどの程度あてはまるか [単一回答形式]

◀最近、自分はキャッシュレス化している(現金離れた・キャッシュレス派だ)▶



最近、国内では、支払いをカードか電子マネーに限定した“現金お断り”のレストランが開店し、海外では、レジが無く、登録したクレジットカードで自動的に支払いを済ませることができる“無人コンビニ”が開店しています。

そこで、全回答者(1,000名)に、「完全キャッシュレス化したレストランはアリだと思うかどうかを聞いたところ、同意率は36.4%、不同意率は33.0%となり、肯定派が否定派を上回る結果となりました。

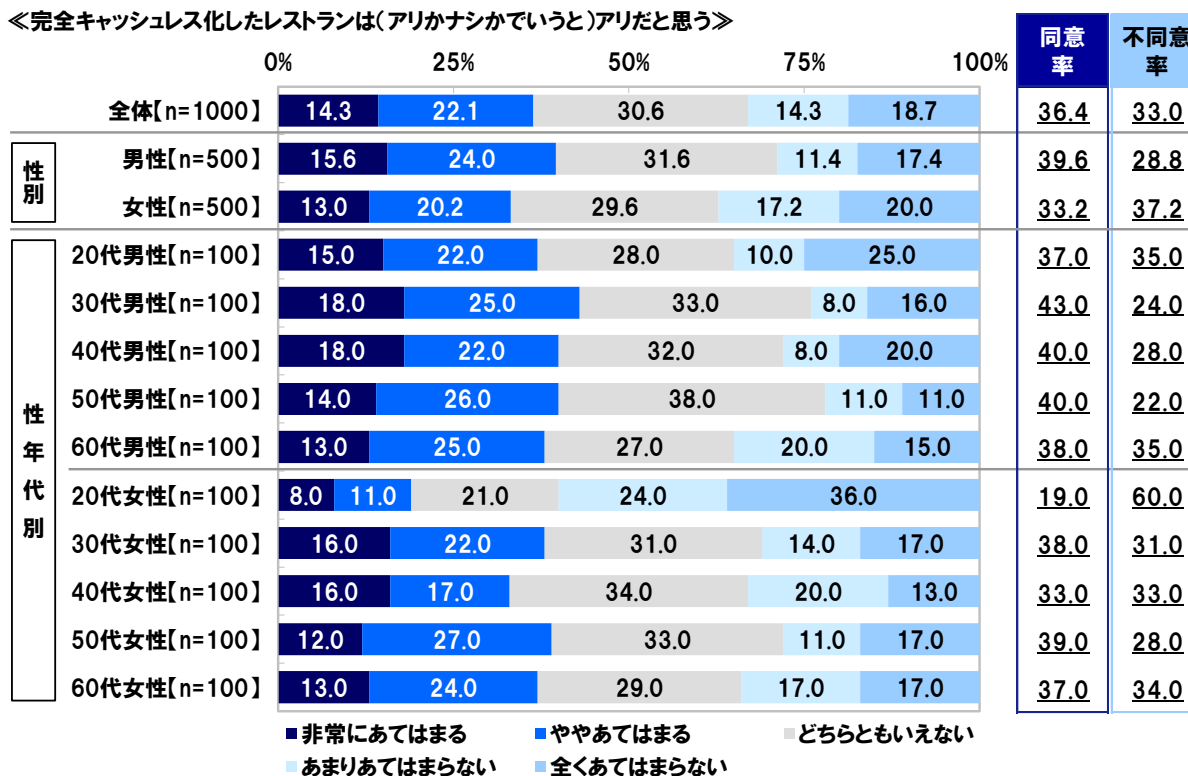
男女別にみると、男性(同意率39.6%、不同意率28.8%)は肯定派の割合のほうが高くなった一方、女性(同意率33.2%、不同意率37.2%)は否定派の割合のほうが高くなりました。

性年代別にみても、男性では、いずれの年代においても肯定派が否定派を上回っていますが、女性では、20代において、肯定派(同意率19.0%)が否定派(不同意率60.0%)を大幅に下回る結果となりました。【図7】

【図7】

■自身の考えにどの程度あてはまるか [単一回答形式]

《完全キャッシュレス化したレストランは(アリかナシかという)アリだと思う》



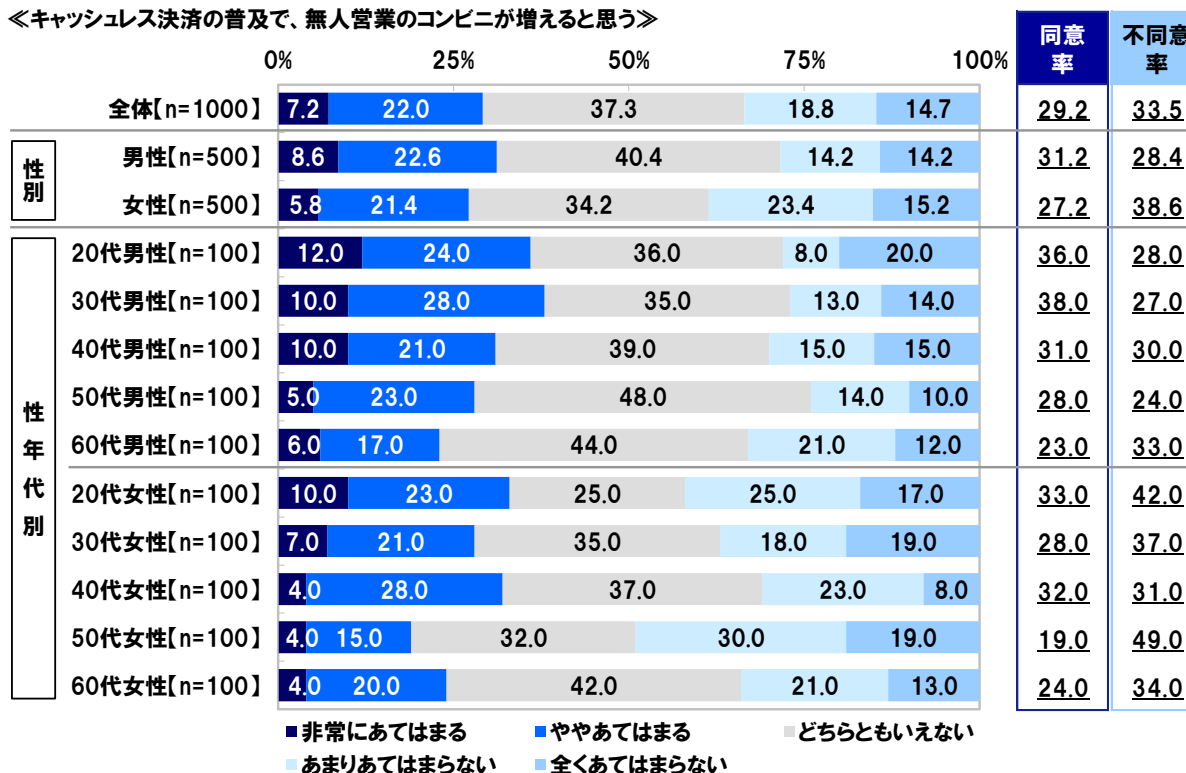
また、全回答者(1,000名)に、「キャッシュレス決済の普及で、無人営業のコンビニが増えると思う」かどうか聞いたところ、同意率は29.2%、不同意率は33.5%で、“無人コンビニ”が増えることに懐疑的な人のほうが多い結果となりました。

男女別にみると、男性(同意率31.2%、不同意率28.4%)では増えると予想する人が多数派となりましたが、女性(同意率27.2%、不同意率38.6%)では増えることに懐疑的な人が多数派となっています。男女それぞれについて、年代別にみると、男性は、60代(同意率23.0%、不同意率33.0%)を除く全ての年代で増えると予想する人が多数派でしたが、女性では、40代(同意率32.0%、不同意率31.0%)を除く全ての年代で増えることに懐疑的な人が多数派となりました。【図8】

【図8】

■自身の考えや行動にどの程度あてはまるか [単一回答形式]

＜キャッシュレス決済の普及で、無人営業のコンビニが増えると思う＞



続いて、キャッシュレス化が進むことによる子どもへの影響について、質問しました。

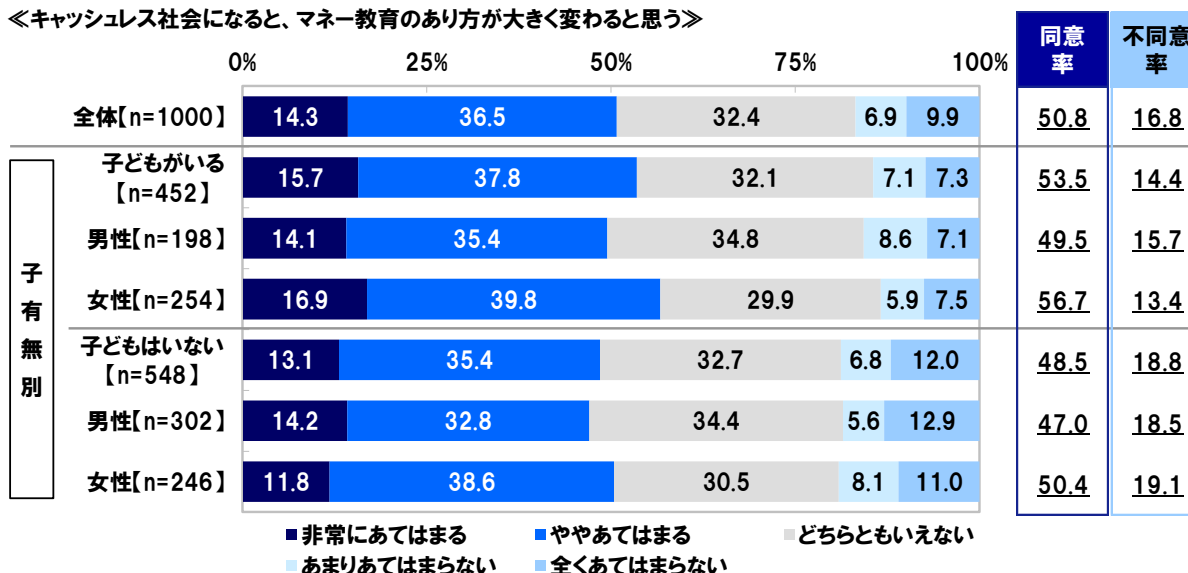
まず、全回答者(1,000名)に、「キャッシュレス社会になると、マネー教育のあり方が大きく変わらと思う」かどうか聞いたところ、同意率は50.8%でした。キャッシュレス化が進むと、お金の価値観や使い方について学ぶマネー教育が大きく変わると予想する人が半数以上であることがわかりました。

子どもの有無別にみると、子どもがいる層では同意率は53.5%となり、特に女性(母親)では56.7%でした。PASMOなどの交通系ICカードは、通学で電車やバスを使う子どもにとっては必須アイテムとなっており、子どものキャッシュレス化を実感している親が多く、キャッシュレス社会に合わせたマネー教育の必要性を感じているのではないのでしょうか。【図9】

【図9】

■自身の考えにどの程度あてはまるか [単一回答形式]

《キャッシュレス社会になると、マネー教育のあり方が大きく変わらと思う》

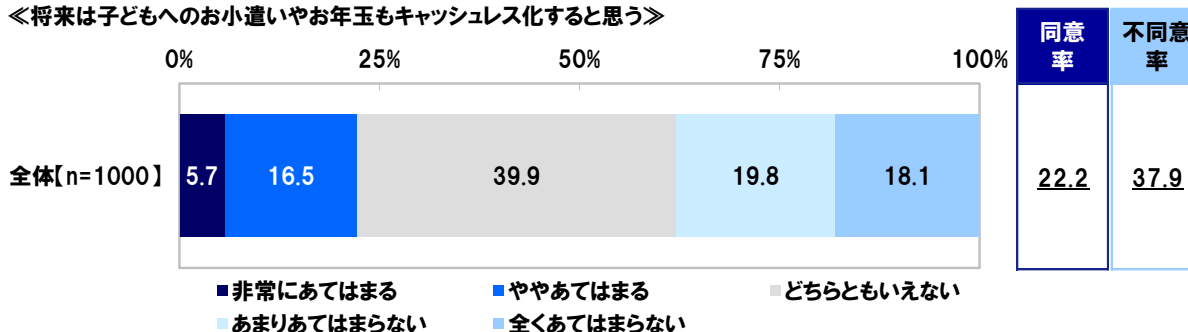


次に、全回答者(1,000名)に、「将来は子どもへのお小遣いやお年玉もキャッシュレス化すると思う」かどうか聞いたところ、同意率は22.2%、不同意率は37.9%となりました。キャッシュレス化が進行しても、お小遣いやお年玉は現金のままだと予想する人が多いようです。【図10】

【図10】

■自身の考えにどの程度あてはまるか [単一回答形式]

《将来は子どもへのお小遣いやお年玉もキャッシュレス化すると思う》

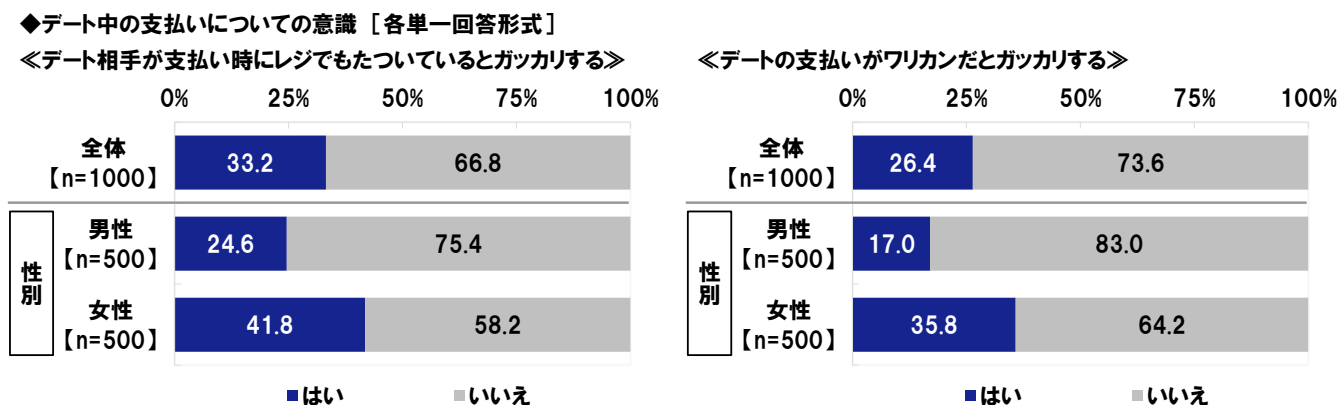


また、デートシーンにおけるキャッシュレスや、海外旅行におけるキャッシュレスに関する内容でも質問を行いました。

全回答者(1,000名)に、2つの内容を提示し、ガッカリするかどうかを聞いたところ、「デート相手が支払い時にレジでもたっている」ではガッカリする人が 33.2%、「デートの支払いがワリカン」ではガッカリする人が 26.4%となり、“ワリカン”より“レジでもたつき”にガッカリする人のほうが多いことがわかりました。デートシーンでの支払いは、クレジットカードや電子マネーを使い、スマートに済ませるといいようです。

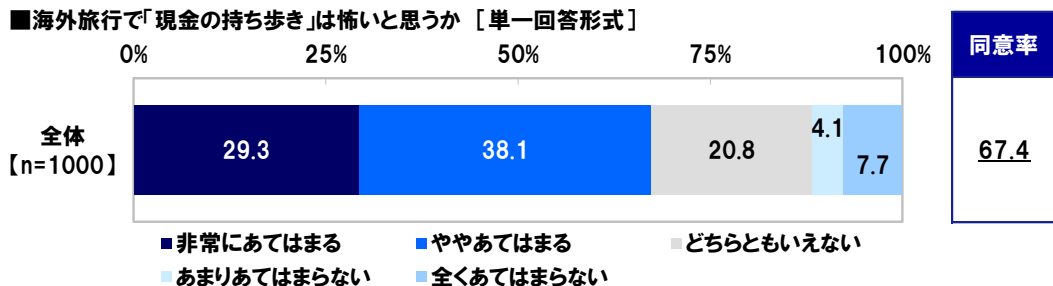
男女別にみると、男性では「デート相手が支払い時にレジでもたっている」とガッカリする人は 24.6%、「デートの支払いがワリカン」だとガッカリする人は 17.0%でした。一方、女性では「デート相手が支払い時にレジでもたっている」とガッカリする人は 41.8%、「デートの支払いがワリカン」だとガッカリする人は 35.8%でした。“レジでもたつき”にガッカリする人は特に女性に多いようです。【図 11】

【図 11】

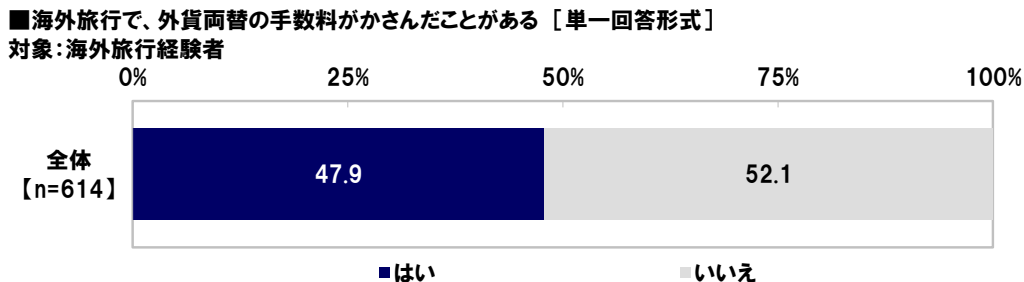


次に、全回答者(1,000名)に、海外旅行で『現金の持ち歩き』は怖いと思うかどうかを聞いたところ、同意率は 67.4%となりました。また、海外旅行に行ったことがある人(614名)に、海外旅行で外貨両替の手数料がかさんだことがあるかを聞いたところ、「はい」と回答した人は 47.9%でした。海外旅行でスリの被害に遭ってしまう危険性や外貨への両替手数料を支払うことを考えると、海外旅行においてはキャッシュレスのメリットは大きいのではないのでしょうか。【図 12】【図 13】

【図 12】



【図 13】



3. 「キャッシュレス派」と「現金派」 話題のサービスの利用意向や生活意識などを比較

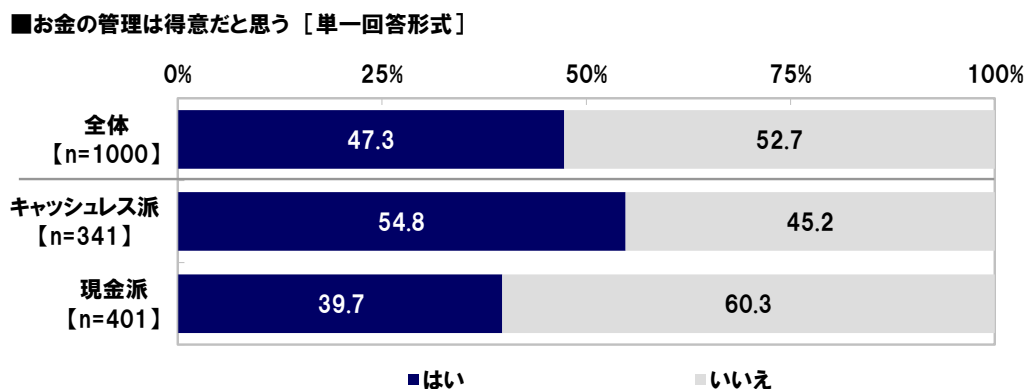
- ▶ 「お金の管理は得意だ」キャッシュレス派の 55%、マネー管理力に自信があるのは現金派よりキャッシュレス派
- ▶ 話題の商品・サービスの利用に前向きなのは現金派よりキャッシュレス派
キャッシュレス派が注目しているのは「AI スピーカー」「ペット型ロボット」といった“AI 搭載商品”
“シェアリングサービス”や“フィンテックサービス”にもキャッシュレス派が熱視線
- ▶ 「管理職になりたい」キャッシュレス派ビジネスパーソンは 4 割、現金派よりも管理職志向が高い傾向に

まず、お金の管理について質問を行い、キャッシュレス派と現金派の結果を比較しました。

全回答者(1,000 名)に、お金の管理は得意だと思うか聞いたところ、「はい」は 47.3%、「いいえ」は 52.7%となり、マネー管理力に自信がないという人が多数派となりました。

キャッシュレス派と現金派についてみると、キャッシュレス派では、お金の管理を得意だと思っている人は 54.8%と、半数以上がマネー管理力に自信を持っていましたが、現金派では 39.7%と 4 割にとどまりました。【図 14】

【図 14】



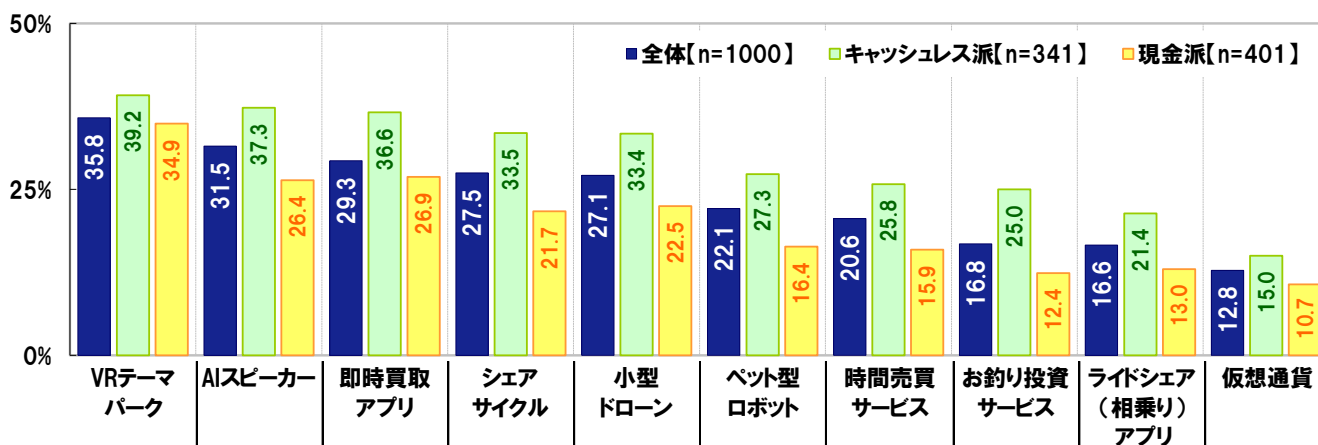
続けて、話題の商品やサービスを提示し、どの程度利用してみたいと思うか質問し、キャッシュレス派と現金派の結果を比較しました。

全回答者(1,000名)に、話題の商品・サービスをどの程度利用したいか聞いたところ、『利用したい(計)』(「非常に利用したい」と「やや利用したい」の合計、以下同様)が最も高くなったのは「VRテーマパーク」で35.8%、次いで、「AIスピーカー」が31.5%、「即時買取アプリ」が29.3%、「シェアサイクル」が27.5%、「小型ドローン」が27.1%となりました。

キャッシュレス派と現金派を比較すると、いずれの商品・サービスもキャッシュレス派のほうが利用意向は高く、キャッシュレス派のほうが新しい商品・サービスの利用に積極的である様子がうかがえました。キャッシュレス派と現金派の差が特に大きかったのは、「AIスピーカー」(キャッシュレス派37.3%、現金派26.4%)や「ペット型ロボット」(キャッシュレス派27.3%、現金派16.4%)といった“AI搭載商品”、「シェアサイクル」(キャッシュレス派33.5%、現金派21.7%)や「お釣り投資サービス」(キャッシュレス派25.0%、現金派12.4%)といった暮らしに役立つ“シェアリングサービス”や“フィンテックサービス”で、キャッシュレス派のほうが10ポイント以上高くなりました。【図15】

【図15】

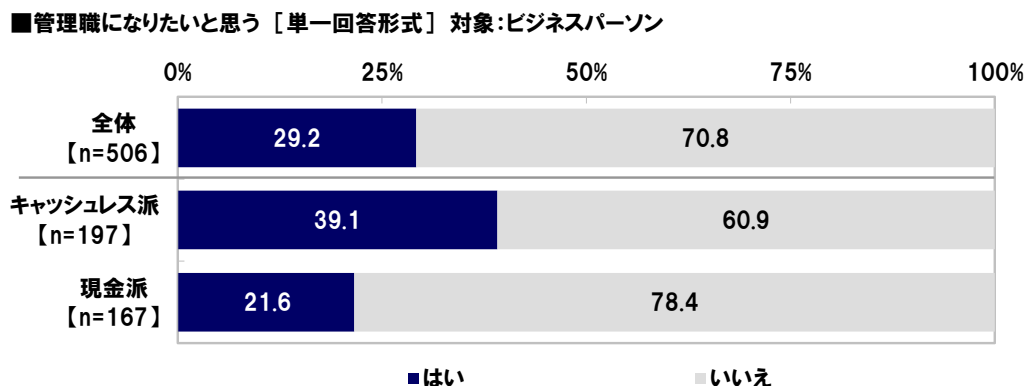
■話題の商品・サービスをどの程度利用してみたいか [各単一回答形式]
 ※「利用したい(計)」「非常に利用したい」と「やや利用したい」の合計を表示



さらに、ビジネスパーソン(506名)には、管理職志向や有給休暇の取得状況、ワークライフバランスに対する意識を聞き、キャッシュレス派と現金派で比較を行いました。

まず、ビジネスパーソン(506名)に、管理職になりたいと思うか聞いたところ、「はい」は29.2%、「いいえ」は70.8%となり、管理職になりたいと思っている人の割合を比較すると、キャッシュレス派では39.1%、現金派では21.6%となり、キャッシュレス派は現金派の2倍近い高さとなりました。【図16】

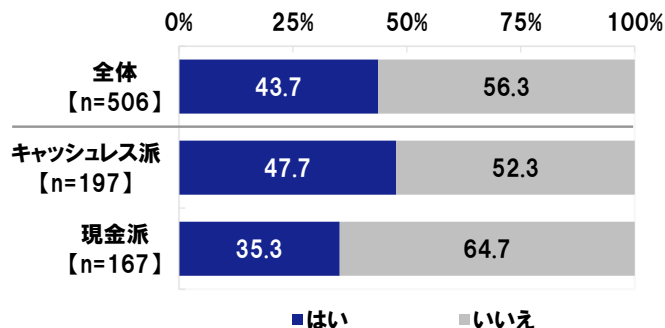
【図16】



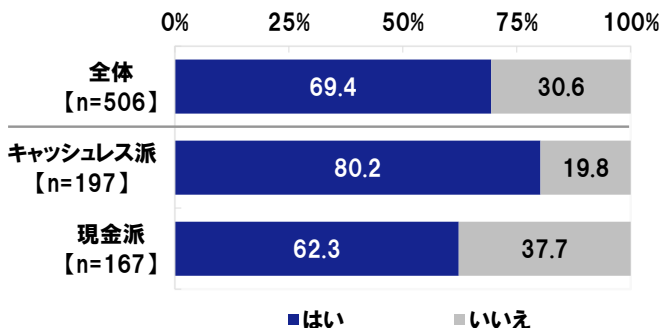
次に、有給休暇は積極的に取得しているかどうか聞いたところ、積極的に取得している人は、キャッシュレス派では47.7%、現金派では35.3%となり、給料の高さよりもワークライフバランスを重視したいかどうかを聞いたところ、ワークライフバランスを重視したい人は、キャッシュレス派では80.2%、現金派では62.3%と、いずれもキャッシュレス派のほうが高くなりました。【図17】

【図17】

◆有給休暇は積極的に取得している [単一回答形式] 対象:ビジネスパーソン



◆給料の高さよりワークライフバランスを重視したい [単一回答形式] 対象:ビジネスパーソン



4. デビットカードの浸透状況・キャッシュレス化の実態

- ▶ 現金派でも4人に3人がデビットカードを認知
- ▶ デビットカードの利用意向が最も高いのは30代
- ▶ デビットカード利用率が年々上昇！昨年から3.0ポイントUPで今年は12.1%に
- ▶ デビットカード利用のメリットとは？「ポイントが貯まる」「使い過ぎる心配がない」「財布がかさばらない」
デビットカードを利用するキャッシュレス派が認めるメリット 1位は「ポイントが貯まる」で48%が実感
- ▶ 最近1年間のキャッシュレス決済利用率「クレジットカード」約8割「電子マネー」6割「プリペイドカード」4割半
- ▶ 5,000円以上の支払いでは「キャッシュレス決済」の利用頻度が「現金決済」を上回る
キャッシュレス派は少額(500円)でも56%が「キャッシュレス決済」、現金派は5万円でも50%が「現金決済」

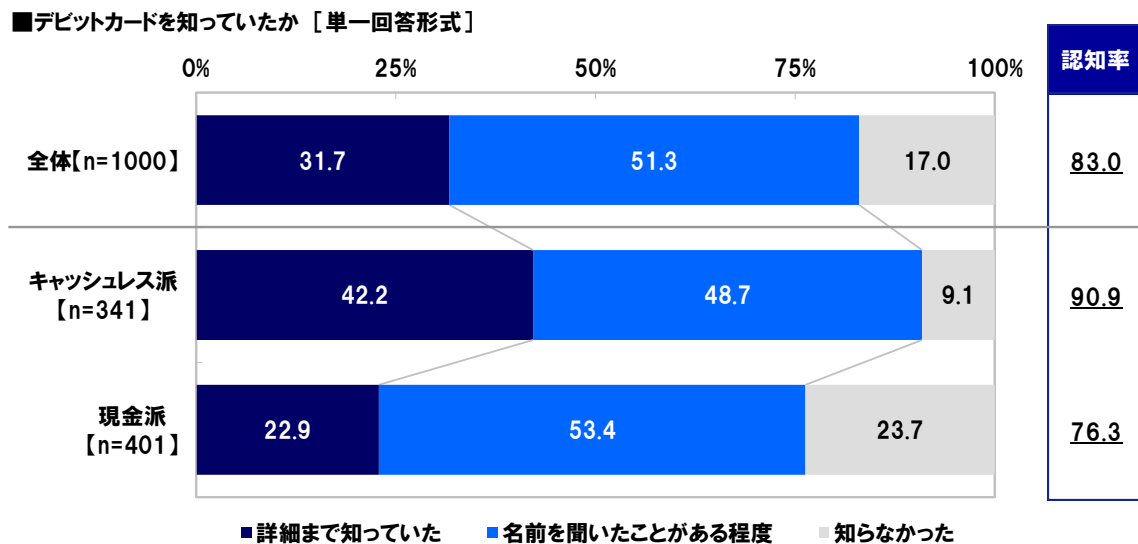
キャッシュレス決済手段のひとつとして、預金口座から即時決済できるという特徴をもつデビットカードがあります。デビットカードはどの程度理解され、実際に利用されているのでしょうか。

全回答者(1,000名)に、「デビットカードについて知っているか」と質問したところ、「詳細まで知っていた」が31.7%、「名前を聞いたことがある程度」が51.3%で、合計した認知率は83.0%となり、「知らなかった」は17.0%となりました。

キャッシュレス派と現金派を分けてみると、キャッシュレス派では、「詳細まで知っていた」が42.2%、「名前を聞いたことがある程度」が48.7%で認知率は90.9%と9割を超えました。一方、現金派では、「詳細まで知っていた」は22.9%、「名前を聞いたことがある程度」は53.4%で認知率は76.3%でした。現金派の人でも4人に3人はデビットカードを知っているようです。

【図 18】

【図 18】



次に、デビットカードについて説明(※)をした後に、デビットカードを今後(または今後も)使いたいか聞いたところ、「非常に使いたい」が 6.8%、「どちらかといえば使いたい」が 26.3%となり、それらを合計した利用意向率は 33.1%となりました。

年代別に利用意向率をみると、20代では 40.5%、30代では 45.5%と 4割を超え、40代以上(40代 35.0%、50代 24.5%、60代 20.0%)より高くなりました。【図 19】

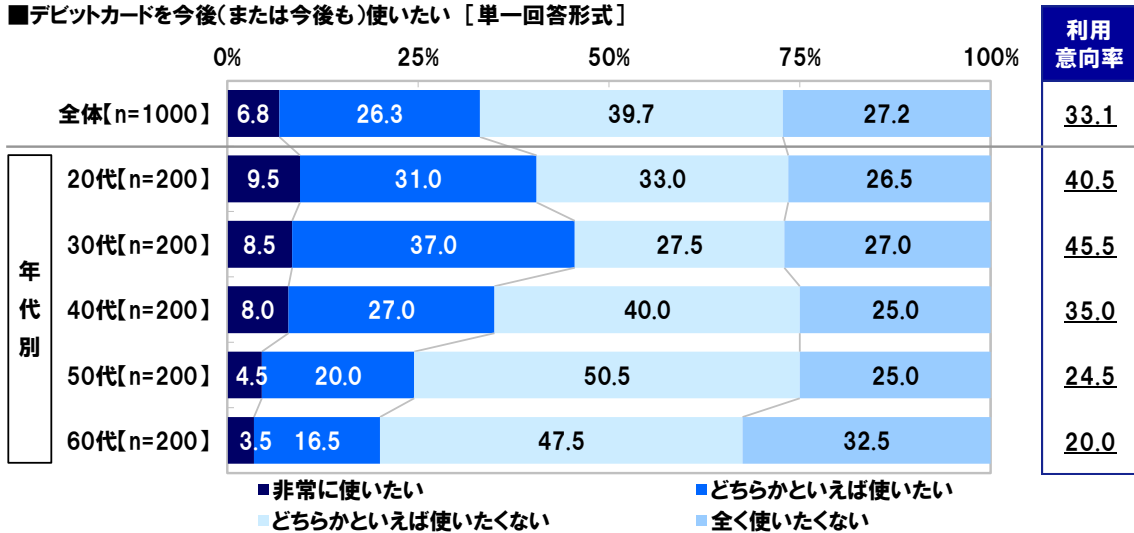
※デビットカードとは、「お買い物をするとき自分の銀行口座から即時で引落としてくれるカード」とし、以下のメリットも記載した

■デビットカードのメリット

「銀行口座があれば発行できる」	原則として口座保有者であれば誰でも(15歳以上・中学生を除く)保有・利用が可能です。
「『お金がないのに買ってしまっただけを防げる』	口座残高の範囲内でしかお買い物はできません。
「口座のお金をおろさず使える」	ATMでイチイチお金をおろす必要はありません。よってATM手数料を気にすることはありません。
「世界中のカード加盟店やネットでもお買い物ができる」	クレジットカードと同様に世界中のカード加盟店で使え、ネットでの買い物も可能です。
「使うたびにお得」	クレジットカードと同様にポイントプログラムのポイントが貯まるお得なサービスがあります。

【図 19】

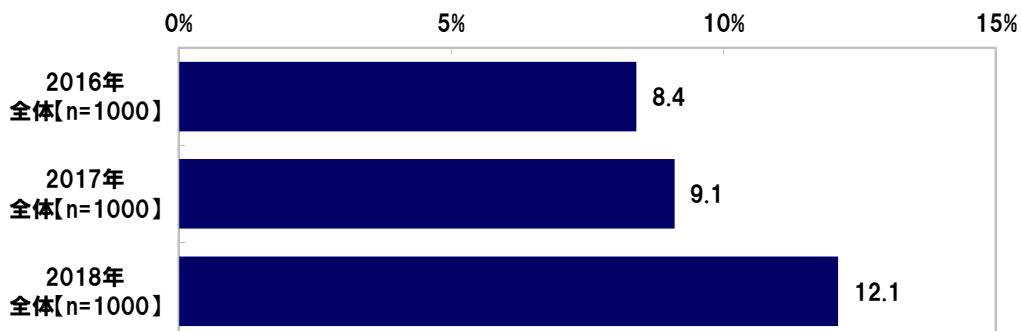
■デビットカードを今後(または今後も)使いたい [単一回答形式]



また、デビットカードの利用率についてみると、2016年 8.4%→2017年 9.1%→2018年 12.1%となり、昨年より 3.0ポイント上昇していました。【図 20】

【図 20】

■デビットカードの利用率



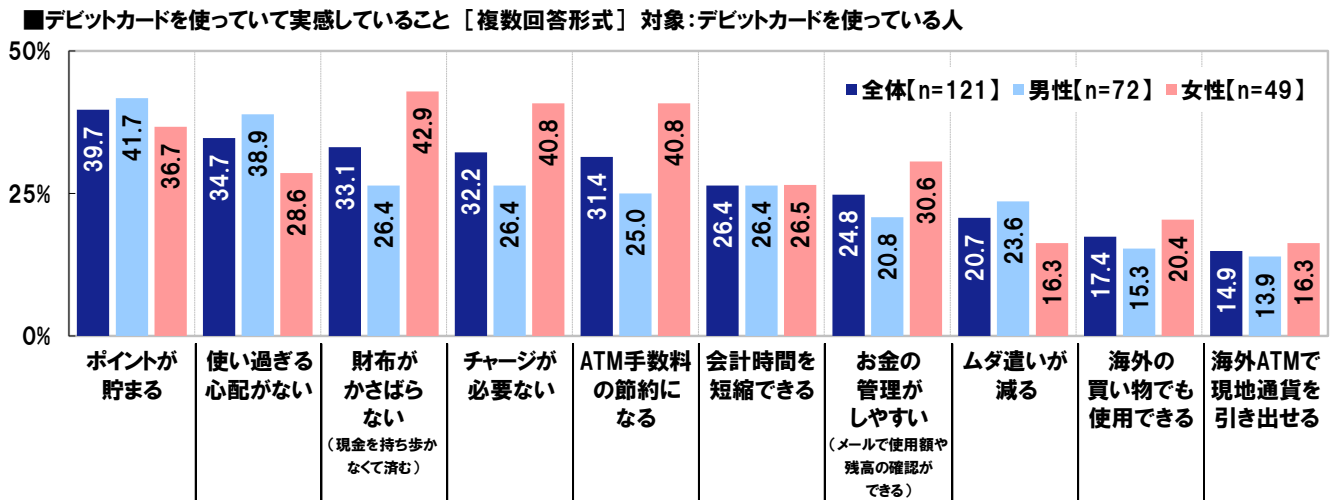
では、デビットカードを使っている人は、どのようなメリットを実感しているのでしょうか。

デビットカードを使っている121名に、デビットカードを使っていて実感していることを聞いたところ、「ポイントが貯まる」が最も多く39.7%、次いで、「使い過ぎる心配がない」が34.7%、「財布がかさばらない(現金を持ち歩かなくて済む)」が33.1%、「チャージが必要ない」が32.2%、「ATM手数料の節約になる」が31.4%となりました。ポイントが貯まる、ATM手数料の節約になるといった“おトク感”、お金を使い過ぎる心配がないといった“安心感”、現金を持ち歩かなくて済む、チャージの必要がないといった“便利さ”を実感している人が多いようです。

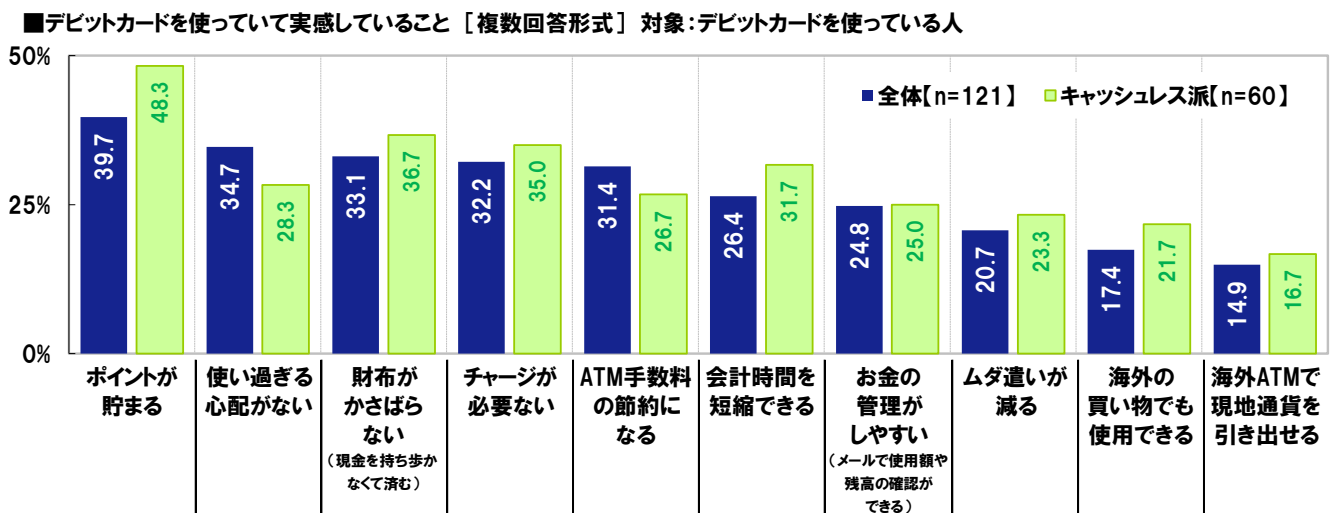
男女別にみると、「使い過ぎる心配がない」は男性38.9%、女性28.6%と男性のほうが高くなりました。他方、「財布がかさばらない(現金を持ち歩かなくて済む)」(男性26.4%、女性42.9%)や「チャージが必要ない」(男性26.4%、女性40.8%)、「ATM手数料の節約になる」(男性25.0%、女性40.8%)、「お金の管理がしやすい(メールで使用額や残高の確認ができる)」(男性20.8%、女性30.6%)では女性のほうが高くなりました。使い過ぎの防止になっていると感じているのは男性、おトク感や便利さを感じているのは女性のようです。【図21】

また、デビットカードを使っているキャッシュレス派の人(60名)の回答をみると、「ポイントが貯まる」が48.3%で全体(39.7%)より8.6ポイント高く、「会計時間を短縮できる」が31.7%で全体(26.4%)より5.3ポイント高くなりました。キャッシュレス派の人は、ポイントでおトクに買い物できることや、レジでスマートに会計を済ますことができる点にメリットを感じているようです。【図22】

【図21】



【図22】



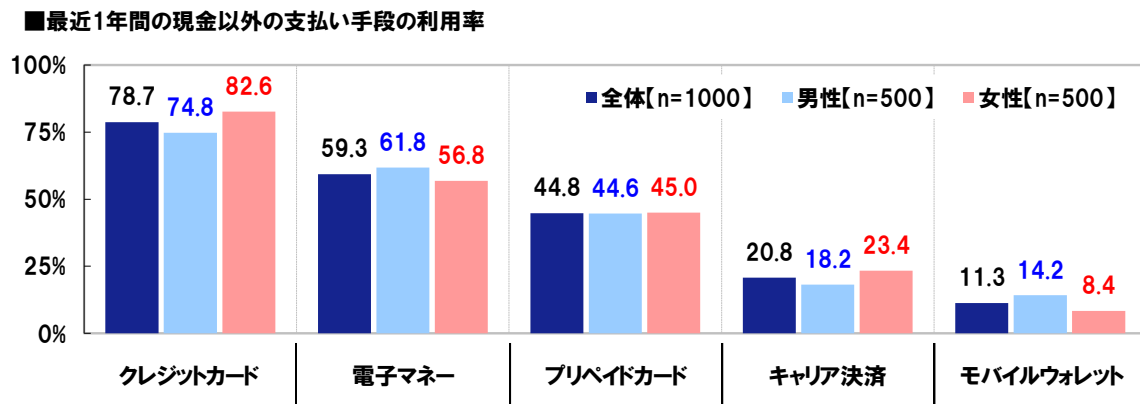
キャッシュレス決済手段には、デビットカードのほか、クレジットカードや電子マネー、キャリア決済、モバイルウォレットなどがありますが、それらの利用状況はどのようになっているのでしょうか。

まず、全回答者(1,000名)に、最近1年間に、現金以外の支払い手段をどのくらいの頻度で使ったかを聞き、各支払い手段の利用率を算出したところ、「クレジットカード」が最も高く78.7%、次いで、「電子マネー」が59.3%、「プリペイドカード」が44.8%、「キャリア決済」が20.8%、「モバイルウォレット」が11.3%となりました。

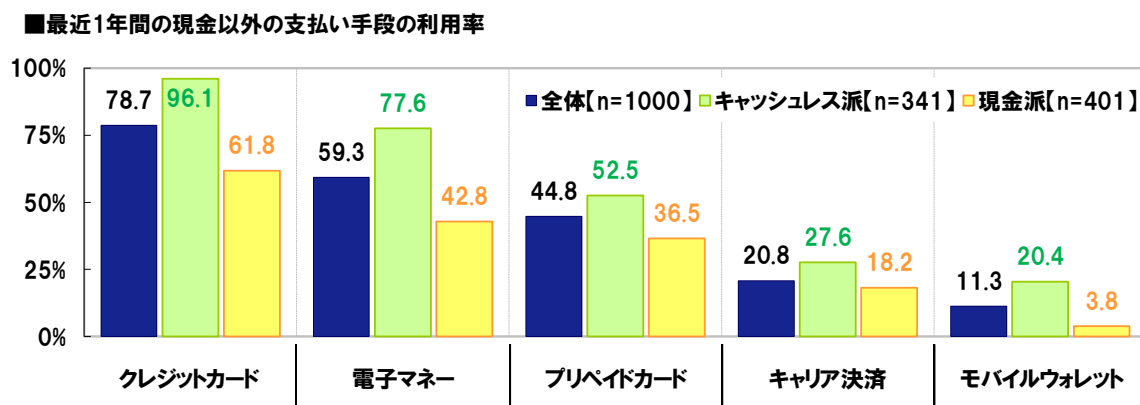
男女別にみると、「クレジットカード」(男性74.8%、女性82.6%)や「キャリア決済」(男性18.2%、女性23.4%)は、女性のほうが利用率は高くなりました。【図23】

また、キャッシュレス派と現金派に分けてみると、「クレジットカード」(キャッシュレス派96.1%、現金派61.8%)と「電子マネー」(キャッシュレス派77.6%、現金派42.8%)において、キャッシュレス派と現金派の間に大きな開きが見られました。【図24】

【図23】



【図24】



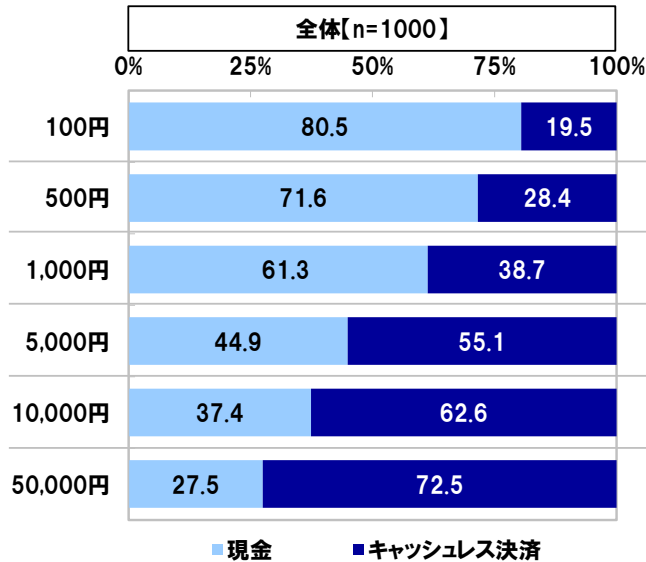
次に、全回答者(1,000名)に、現金も含めて、金額別にどの支払い手段を最もよく使っているか聞きました。

「現金」と「キャッシュレス決済」のどちらが使われているのかをみると、金額が上がるにつれ、キャッシュレス決済の利用率が高くなり、1,000円までの支払いでは「現金」のほうが高くなっていましたが、5,000円以上の支払いでは「キャッシュレス決済」のほうが高くなりました。【図25】

キャッシュレス派と現金派を分けてみると、キャッシュレス派では、500円の支払いで「現金」が44.3%、「キャッシュレス決済」が55.7%とキャッシュレス決済のほうが高くなりました。キャッシュレス派は、少額の支払いでもキャッシュレス決済を利用する人が多いようです。一方、現金派では、金額が上がるにつれ、キャッシュレス決済の割合が高くなるものの、50,000円の支払いでも「現金」が50.1%、「キャッシュレス決済」が49.9%と、キャッシュレス決済が半数を上回ることはありませんでした。【図26】

【図25】

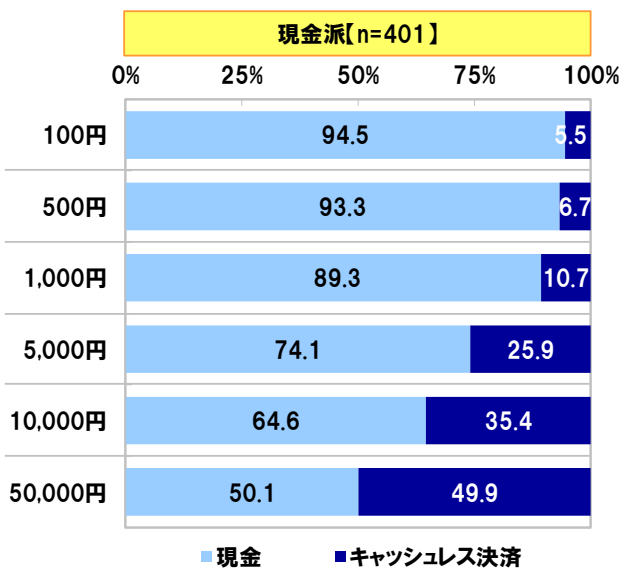
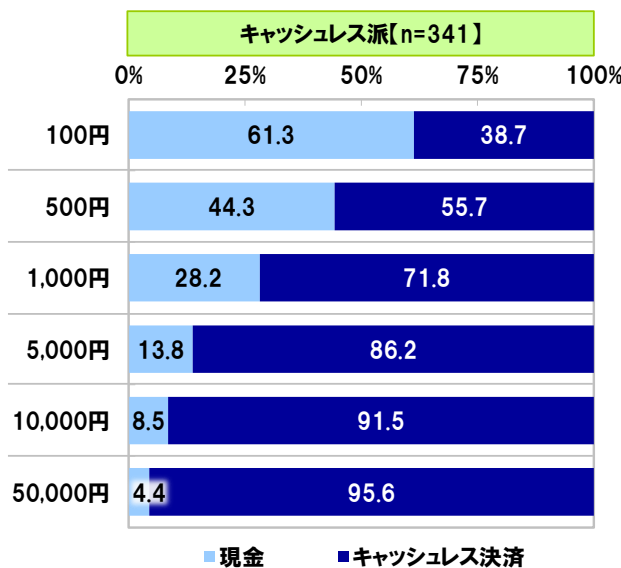
■どの支払い方法を最もよく利用しているか
[各単一回答形式]



キャッシュレス決済の内訳					
クレジットカード	デビットカード	プリペイドカード	電子マネー	キャリア決済	モバイルウォレット
6.3	0.7	1.1	10.3	0.1	1.0
12.4	0.9	2.0	12.2	0.2	0.7
24.0	1.3	1.8	10.8	0.3	0.5
47.8	2.5	0.9	3.4	0.5	-
58.1	2.2	0.4	1.3	0.6	-
68.7	1.9	0.3	1.2	0.4	-

【図26】

■どの支払い方法を最もよく利用しているか [各単一回答形式]



■■調査概要■■

- 《調査タイトル》 キャッシュレスとデビットカード利用意向に関する実態調査 2018
- 《調査地域》 全国
- 《調査対象》 ネットエイジアリサーチのモバイルモニター会員を母集団とする 20 歳から 69 歳の男女
- 《調査期間》 2018 年 2 月 9 日(金)～2 月 13 日(火)
- 《調査方法》 インターネット調査
- 《有効回答数》 1,000 サンプル

(内訳)

男性 500 サンプル(20 代 100 サンプル/30 代 100 サンプル/40 代 100 サンプル/50 代 100 サンプル/60 代 100 サンプル)
女性 500 サンプル(20 代 100 サンプル/30 代 100 サンプル/40 代 100 サンプル/50 代 100 サンプル/60 代 100 サンプル)

《実施機関》 ネットエイジア株式会社

■■報道関係の皆様へ■■

本ニュースレターの内容の転載にあたりましては、
「JCB 調べ」と付記のうえ、ご使用いただきますようお願い申し上げます。

■■本調査に関するお問合せ窓口■■

株式会社ジェーシービー
広報部 広報グループ
TEL :03-5778-8353

■■株式会社ジェーシービー 概要■■

名称 :株式会社ジェーシービー(JCB Co., Ltd.)
代表者名 :代表取締役兼執行役員社長 浜川 一郎(はまかわ いちろう)
所在地 :東京都港区南青山 5-1-22 青山ライズスクエア
事業内容 :クレジットカード業務、クレジットカード業務に関する各種受託業務、融資業務、信用保証業務、
集金代行業務、前払式支払手段の発行ならびに販売業およびその代行業
